

令和元年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472100914	事業の開始年月日	平成15年7月1日
		指定年月日	平成27年7月1日
法人名	特定非営利活動法人グループホーム虹の会		
事業所名	グループホーム虹の家		
所在地	( 248-0024 ) 神奈川県鎌倉市稲村ガ崎四丁目5番19号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
定員計		9名	
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和1年11月15日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/14/index.php?a>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"><li>・昼間の職員の人数は法定より1人程度多く、入居者一人一人のニーズに対応出来るようにしている。</li><li>・入居者一人一人が朝1日を気持ちよく始められ、日中の活動を十分にし、満足して1日を終わり、夜安心して休んでいただけることを目標に日々努力している。</li><li>・一人一人に合わせた自然な形でのケアを心掛けている。</li><li>・地域との交流の場を大切にし、地域の方々に講師にお招きし、近所の方のボランティアを得て活動している</li><li>・回想法を採り入れている。グループ回想法は、入居者が一堂に会してお互いに話し合う社会的な場を共有することにより、一人一人が満足した時を過ごすことができ、安心してグループホームを自分の居場所として実感していたことを目標に実施している。</li><li>・住み慣れた場所で、穏やかな最期を迎えられるように、ターミナルケアに力を入れている。</li></ul>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和1年11月27日	評価機関 評価決定日	令和2年1月29日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、江ノ島電鉄稲村ヶ崎駅から徒歩で5分、幹線道路から奥まった閑静な住宅地にある。近隣には幼稚園のほか大きな屋敷跡がいくつも点在している。看護師仲間が設立した1ユニットのグループホームは、アットホームで穏やかに暮らせるよう庭には実のなる木や四季折々に咲く花を植え、居室やエレベーターホールには手芸作品を飾るなど随所に工夫が凝らされている。</p> <p><b>【理念に沿った介護】</b> 認知症の人でも最期まで人間らしく暮らせる手伝いをしたいという理念のもと、利用者の「うれしい」を探し、日々の生活を楽しんでもらえるよう職員は奮闘している。回想法や絵画療法など認知症に有効と言われる方法を、率先して日々のケアに取り入れている。当日も利用者同士の会話や笑い声が絶えず聞こえてきて、穏やかな時間が流れていた。</p> <p><b>【利用者に手厚いケア】</b> 看護師資格を持った職員が2人おり、最期の時まで手厚い介護を受けることができる。また、職員も認知症の研修を何度も受けており、回想法や絵画療法などから得た情報を基に、月に2回の話し合いなどで情報を共有しながら利用者一人ひとりに丁寧に接している。元利用者家族や近隣住民のボランティアとしての協力もあり、写仏や生け花などのアクティビティも定期的に行われている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム虹の家
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・日々の気付きやケア実践の積み重ねを理念に基づいて介護計画に反映させ、サービス提供に活かしている。	開設当初からある理念を基に、利用者の「うれしい」を探すという目標を掲げている。職員は理念をメモ帳の裏に貼り、介護に悩んだりした時はすぐに見るよう指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近隣幼稚園とは誕生会や毎日の散歩で交流している。作品展には合同作品も作っている。 ・地域の方には職員が率先して挨拶し、利用者と自然に交流出来るようにしている ・近所の子供たちがハロウィンに尋ねてくる ・近所の方が写仏教室の講師をしてくださっている	散歩コースの道中にある幼稚園からは毎月の誕生会に招待され、利用者は園児と共に祝ってもらっている。年に1回の作品展に園児と共に作った作品を展示している。今年「RUNTOMOかまくら」の中継地点で職員がボランティアとして参加、接待などに協力した。元職員や元利用者家族が絵画教室や庭の管理などをボランティアとして手伝ってくれる。近隣の方が立ち寄ってくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域介護支援機構、NPOセンターなどに加入し交流に努めている。 ・認知症の家族を持つ方の相談相手になっている。 ・年一回行う作品展を通じて、グループホームの実情や、認知症の方の生活について紹介している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議には、ご家族代表、近隣住民の方、地区の民生委員などに参加していただいて活動への理解を深め、災害対策、レクレーションの内容等幅広く助言を頂いている。	隔月で鎌倉市職員、介護相談員、地域包括支援センター職員、民生委員、近隣幼稚園職員、近隣住民、利用者家族などが参加し開催している。土砂災害危険区域なので、がけ崩れなどの問題などを近隣の方との話し合う場となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営上不明なことについては速やかに市役所に相談している。 ・書類を市役所に直接持参するなどして、行き来する機会を積極的に作っている。 ・地域密着事業者連絡会では、GH部会の委員として研修開催に協力している	市の職員が運営推進会議に参加し積極的に地域の相談に乗ってくれる。市の介護相談員の派遣を受け入れている。「鎌倉市地域密着型サービス事業所連絡会」のメンバーとして研修や会議に参加している。保健所の研修などに職員を派遣している。地域包括支援センターと協働して認知症サポーター講座を開催している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束は行っていない</li> <li>・玄関の施錠については主に防犯上の観点から、家族等によく説明した上で行っている。</li> </ul>	「身体拘束等の適正化委員会」を3名で隔月に開催している。2月に話し合いを行い、全職員に県の「自己点検シート」を使いアンケートを取り、6月のミーティングで結果を話し合った。防犯のため日中も施錠しているが、利用者と共に散歩に行くなど閉じ込めることがないように注意し見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりある人員配置により、職員が虐待につながるような過度の緊張状態に陥ることがないように配慮している。</li> <li>・虐待についての報道等を踏まえ、そういったことが起こらないように皆で話し合いを持ち、研修も行っている</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者家族等が制度の利用を検討、または必要と思われる場合に、適宜支援している。現在1名の方が同制度を利用し、1名が準備中である。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時は将来のことを含めて出来ること、できないことを明確に説明している。</li> <li>・契約改訂に際しては、十分な説明と話し合いの上で行っている。</li> </ul>		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の運営規程、苦情申し立てについての説明文と共に意見箱を設置している。</li> <li>・介護計画の家族の意見欄を活用し、希望する事や、直接言いにくいような事も伝達できるようにしている</li> </ul>	年に1度懇親会を開き意見を聞いている。毎月「便り」を発行し情報発信を行い、家族とコミュニケーションを取っている。外出や行事などの手伝いを進んでやってくれたり、退去した後もボランティアに来てくれたりしている。家族からの要望や意見は事務室の白板に書き込み職員と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の申し送り、月2回の管理者及び職員全員を対象とするミーティングを実施している。検討内容を記録し、周知している。</li> <li>・休み時間や、親睦会等で忌憚のない意見を言えるようにしている</li> </ul>	月2回のミーティングの検討内容を記入し、用紙を事務室に張り出し、話し合いたいことや課題を自由に記入できるようにしている。朝起きて2階の居室から1階の居間に降りるまでのエレベーターの待ち時間にテレビがあればという意見が職員からあり壁掛けテレビを設置した結果、利用者もゆったり待てるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得者への手当支給、研修費用の負担等、意欲の喚起に努めている。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が各種研修に参加できるよう、費用や時間の確保に努めている。</li> <li>・実務者研修、初任者研修、新人研修等に参加している</li> <li>・市主催の認知症ケア研修に職員が参加している</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かまくら認知症ネットワークに参加し、交流している。</li> <li>・他事業所との交流をしている。合同でメイクショーを開催している。</li> <li>・虹の家での作品展に他の事業所の利用者を招いている</li> </ul>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族からの聞き取りだけでなく、必ず現在生活している住まいを訪問、本人と面談してその思いや不安などを受け止めるようにしている。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・管理者は介護士としての経験を踏まえながら相談に乗り、丁寧な説明を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事業所に空きが無く、実際のサービス提供ができない場合にも、誠意を持って相談に乗り、入居待ちをお願いしたり、他のサービスや事業所を紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・尊敬の念をもって言葉遣いには十分に注意し、優しさ、思いやりの心などに感謝を示す。 ・家事を分担するなどし、役割を持って生活していただく		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・折に触れて本人についての現在、過去の情報を共有している。 ・各利用者の誕生日会を催し、家族と共に祝い、歌うなどしている。 ・家族による思い出話等の中にも、ケアのヒントを見出している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご友人からのお便りを一人で読めない方には、職員が代読している。 ・訪ねてきた方と一緒に過ごせるよう、支援している。 ・電話で話しができるようにしている。	友人からの便りを職員と一緒に読むなど、関係継続を支援している。毎月「回想法」の日を設けて利用者が昔の生活を懐かしむことができるよう支援している。近隣の幼稚園児が馴染みとなって、散歩等を楽しみにしている利用者が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・食卓では仲の良い方同士が会話を楽しみながら食事できるよう席順を配慮している。 ・1階、2階のホールを整備し、ゆったりくつろげる環境を整えた		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・亡くなられた方のご家族にグリーンフレターとお花を送るようにしている。</li> <li>・希望される方には催事等に参加できるように、たよりをお送りしている。</li> <li>・亡くなられた方のご家族が、絵画教室の先生や手伝いにボランティアとして参加して下さっている</li> </ul>		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の申し送りの中で、個々の細かい状態を確認しながら話し合い、希望通りの生活が困難になった方にも、出来る限り希望に添えるよう配慮している。</li> </ul>	利用前に家族アセスメントを行い入居前の情報を得ている。入居後は日頃の関わりの中や回想法で利用者の想いを見つけている。利用者とは1対1になる時や入浴中、夜のゆっくりした時間帯に話を聞くことが多い。職員は聞き取った内容をメモして、それを基にカンファレンスで話し合い希望に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人の生活状況、趣味趣向、性格、生い立ち、土地柄、時代背景などの情報をご本人やご家族からお伺いしている。</li> <li>・回想法での発言や日々の会話、生活の中での気づきを職員間で共有し、ケアに活かしている。</li> </ul>		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠時間、食事の摂取量、バイタルチェック、清潔の保持、更衣の見守り、レクや家事の遂行等、一人一人の現状に合わせて支援している。</li> </ul>		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICFの視点を採り入れたケアプラン立ち上げシート（諏訪さゆり氏監修）や医療アセスメントシート等を利用し、各職員の意見を聞きながら介護計画を作成し、必要に応じて随時見直しを行っている。</li> </ul>	ケアプラン立ち上げシートを工夫しアセスメントを行っている。毎月のカンファレンスや申し送りノートを利用し職員の意見を取り入れて介護計画を作っている。介護記録のファイルにも計画書が挟まれており、職員は計画書に沿ったケアを行っている。急変時や6か月ごとに見直しを行う。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティング時にモニタリングを行い、改善点を検討する。</li> <li>・毎月、前月分の記録をまとめて読み返し、ご家族へのお手紙にまとめる作業を通して、次の介護計画や日々の実践に反映させている。</li> </ul>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢や、遠方にお住まいなど、ご事情のあるご家族には、必要に応じて通院に付き添っている。</li> <li>・外出が好きな方を対象にドライブに行くなどしている。</li> <li>・運動好きな方には運動プログラムを提案している</li> </ul>		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防や自治会と連携して防災訓練を実施している。</li> <li>・近隣の幼稚園と日常的に交流している。</li> <li>・傾聴ボランティアが毎週きてくれている</li> </ul>		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族と相談の上、近隣の提携開業医や提携病院等の受診を支援している。</li> <li>・通院が難しい方には月2回訪問診療を受けている。</li> </ul>	入居前から受診している医院に継続受診している利用者が1名、受診が難しくなった利用者は希望する往診医に来てもらっている。内科だけでなく皮膚科や歯科も希望すれば往診が受けられる。職員に看護師が2名いるので医師との連携はスムーズである。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員2名（非常勤）が看護師で、各利用者毎に必要なチェックを行っている。</li> <li>・体調悪化時やターミナル期には、職員に指導している。24時間対応出来る体制である。</li> </ul>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院時には可能な限り職員も同行し、医師の説明の時は家族が許せば同席している。</li> <li>退院に向けてご家族の希望や医師の意見を聞く機会を設け、リハビリの様子などを見学している</li> </ul>		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>ターミナルケアについての指針を設定し、年1回アンケートを実施している。</li> <li>個々のかかりつけ医には、当事業所の方針について話して了承を得ている。</li> </ul>	入居前に看取りもできる事を説明し、その後も年に1回意向についてアンケートを実施している。医師が終末期と判断した場合は家族と話し合いを行い希望すれば看取りに入る。家族とターミナルケア同意書を交わし看取り介護計画書を作成する。今年1名の利用者を看取った。	看護師資格を持った職員だけでなく、他の職員も少しずつ医学的知識を学習し、不安なく看取りができるよう更なるレベルアップを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な訓練は行っていないが、想定される事態に対処するための研修等を随時実施している。</li> </ul>		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回、防災訓練を実施している。その際地域の方にも声をかけ、避難誘導など協力していただいている。</li> <li>火災通報装置に近隣住民への通報を登録している。</li> </ul>	2月と9月に夜間想定火災訓練を、近隣住民を交えて行った。火災通報装置を押すと近隣住民にも通報が届くように設定されており、毎回の参加を得ている。台風時にがけ崩れの心配があるとして、運営推進会議等で対策を話し合っている。6日分の備蓄があり、リストで管理している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人のプライドを尊重し、注意深く言葉掛けをしている。特に排泄に関することは、メモを用いて連絡を行い、職員が常に確認出来ると共に匿名性を確保している。</li> </ul>	研修で認知症を深く理解し再確認することで、人生の先輩として利用者一人ひとりを敬意を持って支援している。入室時にノックをしたりトイレの誘導時の言葉遣いに気を配ったりしている。アセスメントを行い得意なことやできる事を情報として共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・何かを行う前に希望を伺って、皆で相談している。選択式にするなど質問を工夫し、答えやすいようにしている。歌やおやつの内容、遊びの種類、散歩に行くかどうか等。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・朝は好きな時間に起きる。みんなで一緒に食事したい人は食事時間に間に合うように起きられるよう支援している。早めに休みたい、昼寝がしたい等の希望も伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・それぞれの家族に依頼して、好みの衣類や愛用の化粧品等を用意していただいている。 ・5月には、メイクアップショーで専門家にお化粧品してもらった（参加した方のみ）。 ・着物や浴衣を着る機会を設けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好みに合わせた献立の工夫をしている。味覚が低下しているため、見た目にも楽しめる工夫をしている。 ・行事の際には外食に出かけたり、お寿司等の出前を取っている ・皆で一緒にお菓子を作ったり、コロッケ作りや梅シロップ作りなども行っている。	朝、夕の食事は温めるだけのレトルト食品を中心としている。昼食は献立を考え、利用者と共に買い物に行くなどして、毎回楽しんでいる。利用者は配膳や盛り付けなど職員と共にやっている。おやつと一緒に作れるものを考えたり、外食に行ったりする。職員は同じものを利用者と共に食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・嚥下の悪い方にはトロミ剤を使用、堅いものが食べられない方にはミキサー食、ムース食を用意し、摂取量が改善した。 ・好みに応じた飲み物を用意し、適切な水分摂取を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後にお茶をお出ししている。 ・元々の生活習慣に合わせているため、毎食後に行う人もいれば、朝晩のみの人もいる。丁寧な口腔ケアを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの方に合わせたタイミングでトイレ誘導等を行っている。</li> <li>・歩行困難な方には夜間居室にセンサーを設置して、目が覚めた時に介助出来るようにしている。</li> </ul>	1階に2か所トイレがあり、一つは浴室に繋がっている。2階の居室部分には3か所のトイレがあり、1か所はシャワー室がついている。職員はプライバシーに配慮して、耳元でさりげなく言葉をかけて誘導している。チェック表には個人名が伏せて書かれており、プライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の散歩や体操を行い、繊維質のものを食事に取り入れている。</li> <li>・乳酸菌飲料を飲むなど、水分補給に努めている。</li> </ul>		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の希望や身体状況に合わせて、時間帯や回数、入浴の形態、介助の程度などを考慮し、入浴を楽しめるよう支援している。</li> </ul>	午後に入浴できるよう支援している。症状に合わせて誘導の仕方を変えたり、順番を考え誘っている。ゆず湯やしょうぶ湯の他、入浴剤などを変えて楽しめるように工夫している。浴室にはエアコンやヒーターなどを設置し温かく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が希望すればいつでも横になれるようさりげなく声かけ、見守りを行っている。</li> <li>・気候に合った寝具を使えるよう支援している。必要に応じてエアコンを使用している。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服用中の薬の一覧表を看護師のチェックの下で作成し、活用している。</li> <li>・新しい薬が処方された場合は、症状を観察、報告している。</li> <li>・下剤の調節に際しては、医師と連絡を取りながら対応している</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日に一度はみんなで歌う機会を設けている。</li> <li>・座ったままで出来る仕事、立ってする事など、それぞれの能力に応じて家事に参加出来るよう支援している。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、散歩に出られるよう支援している。</li> <li>・少し遠くまで外出する機会として、外食に出かけたり、フラワーセンターに行ったりしている。</li> </ul>	車椅子の利用者もマンツーマンでできるだけ散歩に出られるよう支援している。幼稚園が散歩コースの途中にあり、行くと園児たちが駆け寄ってくれる。毎年、家族も誘い江ノ島の水族館や大船のフラワーセンターなどを見物し外食する行事を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭の管理、使用が困難なケースも多い。それぞれの状態に応じて、お金の不安を解消できるように支援している。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙等を見て楽しまれた後、混乱される例もあり、お預かりする場合もある。</li> <li>・絵ハガキ作りをして、家族に年賀状として出した。</li> </ul>		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物自体が一般の住宅の様な作りで、安心して生活できるよう配慮されている。</li> <li>・各部屋に温湿度計を設置し、調節に活用している。</li> <li>・1階ホールに大きめのテーブルを設置し、庭を眺めながら共に過ごせる。庭の手入れはボランティアが来てくれている</li> </ul>	1階は浴室と事業所、居間があり、広めのエレベーターホールはくつろぎスペースとなり、利用者同士の歓談の場になっている。2階は全部居室となっており、利用者のほとんどは日中1階の居間で過ごしている。場所ごとに掃除の時間を決めており清潔に留意している。稲を育てたり季節の花が見られるよう樹木を育てている。季節を感じられるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が自由に外気浴出来るよう玄関前にベンチを設置している。</li> <li>・2階ホールにはソファを設置し、ゆったりと過ごすことができる。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の居室の備品は本人の好みであった、あるいは使い慣れた物をご家族に持参していただいている。</li> <li>・テレビ、ラジオ、CDプレーヤー等、それぞれの好みに応じて置いている。</li> <li>・写真等が混乱の元になることもあり、必要に応じて整理している。</li> </ul>	エアコン、照明器具、クローゼットが備え付けとなっている。利用者は机や椅子、鏡台、テレビなど使い慣れたものを置いている。また写真や手芸、本やぬいぐるみなど思い思いの品を持ち込み、居心地良いよう工夫している。利用者の状態に合わせ室内を整理しシンプルにする工夫もある。職員は換気などに留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目めくりカレンダーを3カ所に貼り、常に日付が確認できるようにしている。</li> <li>・危険があると思われる方には、センサー等を使用して安全確保に努めている。</li> <li>・歩行困難な方には、室内でも歩行器を使用して頂いている</li> </ul>		

# 目標達成計画

事業所名 グループホーム 虹の家

作成日 令和2年 3月19日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看取りを行う際に、施設内の看護師に頼り、任せる部分が多くなってしまふ。	看護師資格を持つ職員だけとは、他の職員も少々の医学的知識を学習し、不安なく看取りが出来るようにスキルアップを図る。	① 職員全員に対して、看取り作業の不安点をターゲットにする。 ② アンケート結果を踏まえて施設内研修を行う。時間を掛けた不安を取り除く。	① 1ヶ月 ② 1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。